

平成24年度 パートナー全体研修・交流会

パートナー企画部会プロジェクト計画の柱の一つでもある「研修・交流の充実」として、2月23（土）に「パートナー全体研修・交流会」をパートナー参加（25名）により開催しました。開催にあたり、センター関係各位の皆様のご支援に感謝致します。

初めに、長須副センター長にご挨拶を頂き、株式会社ウィンド・パワー・いばらきの代表取締役である小松崎 衛氏を講師にお招きし「再生可能エネルギーについて」の講演を質疑応答も含め約2時間に渡り、貴重なお話を聞くことができました。「再生可能エネルギー」については、2年前の東日本大震災による東京電力福島第一原発事故もあり、代替エネルギーでもある風力発電についての関心が高く、昨今のエネルギー事情、風力発電の先端技術、将来の展望と課題などを含めた講演内容は大変有意義でした。

また、普段なかなか知る機会の少ない他グループメンバーとの昼食の豚汁を食べながらの交流（講師も参加）、そして各グループの活動内容や自主活動の紹介などでグループ間の交流を深めることができました。なお、交流会アンケートでの「参加した結果」では、“非常に良かった”“良かった”と回答された方が全体の85%を占め、95%の人が“今後とも継続して実施した方が良い”と回答しており全体交流会は一定の評価を受け、今後も継続実施して行きたいと思います。特に今回の「再生可能エネルギーについて」の講演は時流に沿った内容でもあり大変好評でした。



パートナー全体交流会参加者



再生可能エネルギー講演



特製豚汁の昼食会

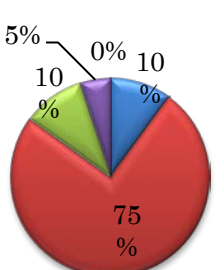
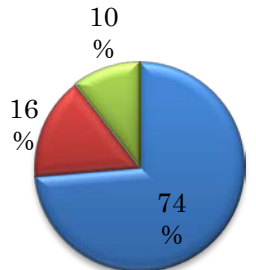
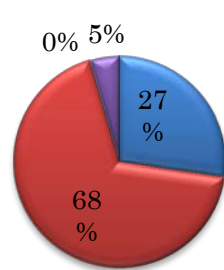
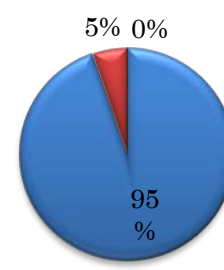


各グループの活動発表
(企画部会：尾形)

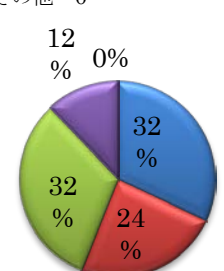
平成24年度パートナー全体交流会アンケートのまとめ

(当日参加された方々のうち20名から頂いた回答集計です)

1. 全体交流会について

1) 今回のパートナー全体交流会に参加してみたいかでしたか	2) 一番良かったプログラムはどれですか	3) 今回の全体交流会に参加してどんなことを得ることができましたか	4) 今後とも全体交流会を実施した方が良いと思いますか
<ul style="list-style-type: none"> ■ 非常に良かった② ■ 良かった⑩ ■ 普通② ■ あまり良くなかった① ■ 良くなかった 0 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講演会⑭ ■ 各グループ活動報告③ ■ 昼食会② 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他グループパートナーとの交流⑥ ■ 再生可能エネルギーの知識⑮ ■ あまり得るものはなかった 0 ■ その他① 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 実施した方が良い⑯ ■ どちらでも良い① ■ 実施しない方が良い 0 

5) 今後の全体交流会にどんなプログラムを取り入れて欲しいですか

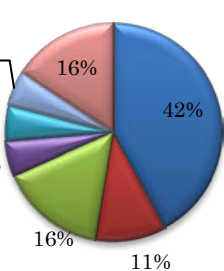
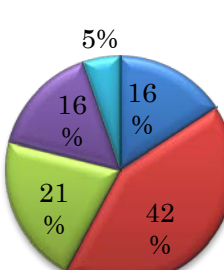
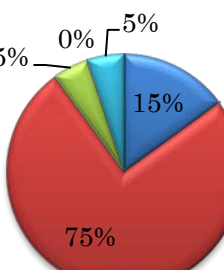
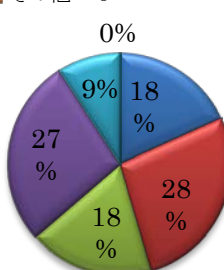
<ul style="list-style-type: none"> ■ 外部講師による講演⑧ ■ 霞ヶ浦に関する研修⑥ ■ 環境市民団体活動現場見学⑧ ■ 参加者による実技研修③ ■ その他 0 

質問1の参加した結果では“非常に良かった”“良かった”と肯定的に回答された方が全体の85%を占め、質問4では95%の人が“今後とも継続して実施した方が良い”と回答しており、全体交流会は一定の評価を受け今後とも継続実施して行くことが求められていると思われる。

プログラム内容としては質問2の良かったプログラム並びに質問3の得ることが出来たものとして“㈱ウインド・パワー 小松崎社長の再生可能エネルギーについて”の講演を挙げる人が多かった。時流に沿った内容で、新しい知識を得るためにも、今後も同様に外部講師による講演会を取り入れて行くこと検討するとともに、“他団体の活動状況や霞ヶ浦に関する様々な知識に触れられる機会を作ること”も今後のプログラムとして求められている(質問5)。

課題としては“参加者がすくない”“いつも同じメンバーになってしまう”などの意見もあり、更に全体交流を深めていける方策を検討し充実した全体交流会の継続実施を目指して行く必要がある。

2. パートナー活動について

1) センターパートナーに登録した年度を教えてください	2) センターパートナーに登録しようと思った理由(目的)を教えてください	3) 実際にパートナー活動を行って、登録時の目的は満たされましたか	4) 今後のパートナー活動に期待することは何ですか
<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成17年度⑧ ■ 平成18年度② ■ 平成19年度③ ■ 平成20年度① ■ 平成21年度① ■ 平成22年度 0 ■ 平成23年度① ■ 平成24年度③ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 様々な人と交流するため③ ■ 環境問題に興味⑤ ■ ボランティア活動に興味④ ■ 退職後の生きがいを求めて③ ■ その他① 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 満たされた③ ■ ある程度満たされた⑮ ■ あまり満たされていない① ■ 満たされていない 0 ■ 新規登録でまだ何とも言えない① 	<ul style="list-style-type: none"> ■ グループ内の交流④ ■ 他グループとの交流⑥ ■ センター職員との交流④ ■ 自主活動を盛んに⑥ ■ 今まで通りで良い② ■ その他 0 

第4回パートナー霞ヶ浦講座 報告

第4回（今年度最終回）パートナー霞ヶ浦講座は1月17（木）に計22名が参加されて阿見町にある国立環境研究所のバイオ・エコエンジニアリング研究施設を見学しました。国内外の水環境の保全再生と廃棄物・資源環境問題を解決する為の国際的研究活動拠点として2002年度に整備された研究施設です。

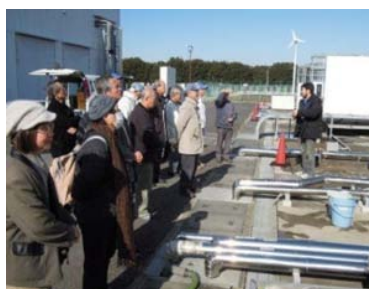
生活排水を実処理施設から搬送し、各種研究開発に利用しています。研究対象地域や季節に応じた排水濃度、水量、気温、水温を制御した高温試験室や屋外の実験フィールドがあり、微生物の力によるバイオエンジニアリング（生物処理工学）及び植物、土壌などの自然の浄化作用を活用するエコエンジニアリング（生態工学）そして自然エネルギーを活用した浄化槽技術等の開発等を行っています。また全国の地方環境研究所、公益法人、民間企業、大学、海外研究機関等との共同研究を実施すると共に、アジア地域を含む世界各国との共同研究、技術研修、現場研修にも利用されています。

施設の特徴は美浦村の農業集落排水処理施設から実際の生活排水を用い、年間を通した温度変化を大型恒温槽で再現することにより、一年間の水温変動を考慮した性能評価研究が短期間で可能になったことです。

パートナー霞ヶ浦講座は計4回実施しましたが出席者は平均21名で毎回出席した方は11名でした。この11名の方には長須副センター長より修了証書が渡されました。来年度もパートナー霞ヶ浦講座を計画していますので多数の参加をお待ちしています。



研究施設説明



屋外処理施設



講座全出席者の表彰式

（企画部：栗原）

環境学習フェスタを開催しました

去る2月16日（土）に「霞ヶ浦環境科学センター環境学習フェスタ」を開催しました。晴天ではありましたが、風が、強く大変厳しい寒さの中、900名の方にご来場いただきました。

この催事は、平成22年度から始まり今回で3回目となります。主な内容はセンターの環境学習プログラムに参加した児童による「環境学習発表会」を主催事とし、併せて「おもしろ科学教室」、「アクリルタワシ教室」、「さかな大研究」などの各種体験型イベントを実施しました。

また、環境学習発表会においては、パートナー感謝状贈呈式も行われました。今年度は5名の方が受賞され、贈呈式には2名のパートナーに出席いただき、センター長から感謝状が贈呈されました。

当日は27名のパートナーの皆様のご協力をいただき、盛況のうちに終えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



（センター：川田）

平成 24 年度パートナーグループ活動報告

企画部会

パートナー企画部会は 2009 (H21) 年 5 月に設立され、4 年になります。

設立主旨は従来のグループ内活動に加え、各グループ間の交流・連携を図るべく、グループ横断的な活動を企画し、センターの支援を得ながら実践することです。

種々の課題はありましたが、本年度も企画部会活動は関係者のご協力で 1 回の休みもなく開催され、各プロジェクトに於いても、ほぼ計画通り実施できました。

以下に、主要 3 テーマの実施概要について報告を致します。

(1) 活動情報の発信

- ①センター夏まつりでは、昨年同様パートナー活動ブースへの出展をセンターの支援を得て行い、多くの参加者 (141 人) で盛り上がりました。出展内容は、各パートナーグループ活動をパネル掲示で紹介及び紙粘土細工とグループ活動内容に関するクイズなどを喜んで頂きました。開催にあたり 6 回の実行委員会を開催し、パートナー有志 4 人で準備をしてきました。平成 25 年度は、更に内容を工夫して継続する予定です。
- ②パートナー情報誌「香澄」については、センター及び編集委員各位のご協力により計画通り 6 回の発行ができました。昨年からのセンターホームページへのアップ等もあり、多くの皆様に活動状況を知って頂けたのではないかと思います。平成 25 年度は、新たな切り口から内容の見直しを行い、充実したパートナー活動情報を継続的に発信して行きたいと思っておりますので、ご期待下さい。

(2) 研修・交流の充実

- ①センターパートナーとして幅広い知識の習得を図るため、本年度もパートナー霞ヶ浦講座を 4 回開催することができました (平成 22 年度に 7 回、平成 23 年度に 5 回)。これもセンター及び関係者のご協力で開催することができ、今年は現地講座を主体に実施してきましたが、環境保全に関わる多くの施設見学は大変勉強になりました。また、全講座出席者には長須副センター長から修了証を授与して頂きました。平成 25 年度も、講演や現地見学も含め企画する予定です。
- ②パートナー全体研修・交流会の企画では、2 月 23 日に多数のパートナー参加により、「再生可能エネルギーについて」株式会社ウインド・パワー・いばらき代表取締役である小松崎 衛氏を講師にお招きし講演をして頂きました。昨今のエネルギー事情、風力発電の先端技術、将来の展望と課題なども含めた話は大変有意義でした。また、普段なかなか知る機会の少ない他グループのメンバーとの昼食の豚汁を食べながらの交流 (講師も参加)、そして各グループの活動内容や自主活動の紹介など、グループ間の交流を深めることができました。平成 25 年度も、各グループ活動の充実と時代に即したリアルな情報や事業の取組み等をタイムリーに企画したいと思っております。

(3) 霞ヶ浦流域の市民団体との交流

- ①環境保全活動市民団体との交流会については、10 月 21 日に我々の仲間でもあるパートナーの宮田さんが代表を務める大子町の「サシバの住む里山づくり」活動現場の見学と交流を行いました。久慈川の清流に育まれた風光明媚な山麓を住みかに、里山のたんぼで餌をとりながら子育てをする 4 月から 5 月に飛来するそうですが、時期的なズレもあり残念ながらサシバの雄姿は見られませんでした。しかし、地元の人々や子ども達が協力し合いその環境を守るため様々な課題にも根気強く取り組んでいる活動には大変感動しました。やはり、貴重な生き物が生息し続けるには宮田さんのような地域を巻き込んだ地道な活動が必要だと感じました。平成 25 年度もセンターのご協力を得ながら、環境保全市民活動団体との交流を企画したいと考えます。

②センター交流サロン事業への参画については、事業計画等についてパートナーとして提案してきました。また、事業計画等についても企画部会で報告し、共有化してきました。平成25年度は、パートナーからの提案内容や交流サロン事業計画等について、企画部会で紹介すると共に参加できるイベントがあればプロジェクト計画にも反映させ、市民活動団体との交流を深めたいと思います。

(4) その他の活動

①普通救命講習も昨年同様、センター及び神立消防署のご協力で実施することができました。暑い中、救命士の指導のもと参加者一同が大声を張り上げながら真剣に取り組む、非常時の対応について貴重な体験をすることができました。平成25年度は、平成24年度から講習内容が一部改正されていますので、引続き開催を予定しております。

②2年目となるパートナークリーンUp活動(毎月1回)ですが、霞ヶ浦湖岸(約2.3km)の範囲で清掃活動を実施しました。この活動は、センターの協力を得ながら、パートナーの自主活動として企画しましたが、1年目に比較し見た目でもゴミが少なくなり、嬉しく思います。平成25年2月までの実績として、天候不順で4回の中止がありましたが、延べ回収量は37袋(可燃:22袋/不燃15袋)延べ参加者46名と多くの方にご協力頂き、限られた範囲ですが昨年に比較すると湖岸のゴミは少なくなり(△37.3%)嬉しく思います。平成25年度も引続き実施する予定です。

③センター「いきもののにわ」の企画は、残念ながらセンターからの提起待ちの状態が続き、具体的アクションはしませんでした。従って、平成25年度プロジェクト計画としてはペンディングとします。

新年度のプロジェクト計画は、新企画も含め現在検討中です。有意義で楽しい企画にしたいと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

(企画部会:尾形)

イベント・記録グループ

当グループの主な活動は、センター行事関係の補助活動とパートナーによる自主活動であります。

1) センター行事の補助活動では

- ・5月の「こども環境フィスティバル」、8月の「センター夏まつり」、12月の「霞ヶ浦水質浄化ポスターコンクール表彰式」や毎月開かれている「霞ヶ浦入門講座」等、各種イベントにおいて記録等、補助活動をおこないました。

2) 自主活動では

- ・川尻川の探索を6月に行いました。

川尻川は土浦市田村～沖宿～かすみがうら市戸崎地区に流れている全長約3kmの川で、主に蓮田の灌漑用水路であり、また谷津田の排水路としても利用されています。上流部では小魚やシジミが見られ、きれいな川でありました。

- ・第4回環境写真展示会を12月に行いました。

今回のテーマは「霞ヶ浦・今日の姿」で、霞ヶ浦の良い面や、改善したい面等、撮影者の思いを込めたコメントと共に、多数応募いただき12月1日より、センター内に展示され多数の方々にご覧いただきました。

私たちの霞ヶ浦を少しは知っていただけたと思いました。

- ・霞ヶ浦入門講座の活動報告資料の整理を行いました。資料はA4ファイル2冊に纏められており、パートナー室の棚においてありますので是非ご覧ください。

(イベント・記録グループ:目次)

植物グループ

植物グループでのパートナー活動は、センター主催の「**野外講座**」に於ける運営補助作業と、“パートナーの自主的な学習行動”として毎月実施する湖岸での「**植物定点観察**」の環境学習推進活動です。

1. 活動のねらいと成果

野外講座は霞ヶ浦流域内の植物観察を通して霞ヶ浦の水質浄化に関心を深めてもらう目的で、10回(4月～翌年1月までの毎月原則第2水曜日)実施され、殆どの回でキャンセル待ちが出るほどの盛況でした。

定点観察活動はセンター直下の湖岸(下図参照)において水質や気象の変動、人工地形の改造など環境の変化が植物相に及ぼす影響を見るため、毎月第4水曜日を定例日に、指定した植物(下記)は年間を通して、また花や実、冬芽など特徴のある植物についても適時に観察・記録してその生態写真に説明を付けてセンター展示室に掲示した。

2. 活動状況

野外講座(パートナーによる観察, 解説活動) **定点観察活動** 湖岸の特徴的な植物(絶滅危惧種、特定外来生物 etc)



平成24-11-14 美浦村馬掛地区



ジョウロウスゲ



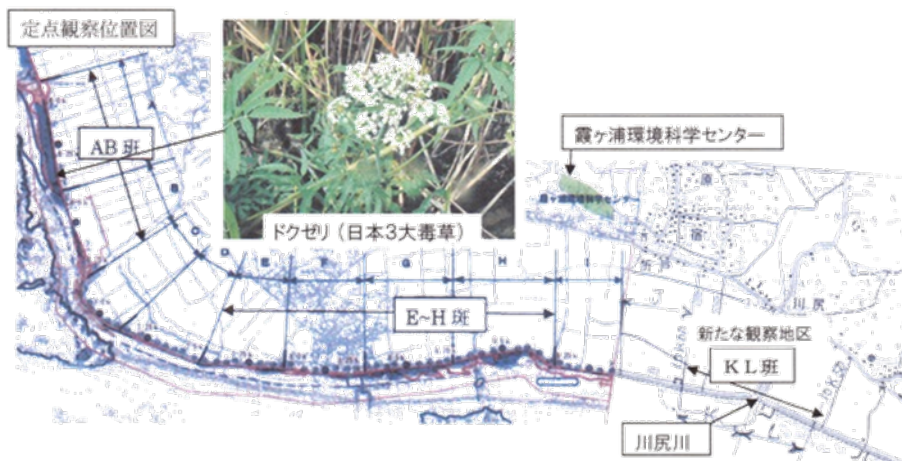
水路を埋め尽くした オオフサモ

[定点観察活動で継続観察する主な植物]

[AB区] イシミカワ、オギ、ヨシ、シロネ、スイカズラ、ミズアオイ(準絶滅危惧種)、タコノアシ(準)、サジオモダカ(県, 準)、**ジョウロウスゲ(絶滅危惧Ⅱ類)**、アサザ(県, Ⅱ類)、マツモ(県, 準)、サンショウモ(県, ⅠB類)、ササバモ(県, Ⅱ類)、**ドクゼリ(日本3大毒草)**、エビモ、

[EFGH区] アレチウリ(特定外来生物)、イヌドクサ、イヌスギナ、ハンゲショウ、アカメヤナギ、カワヤナギ、オニグル ミノウルシ(準)、サクラタデ、シロバナサクラタデ、ヤナギトラノオ(県, 絶滅危惧Ⅱ類)、ミクリ(準)、セイタカヨシ(県, 準)

[KL区] **オオフサモ(特定外来生物)**、マコモ、ウキヤガラ、ワレモコウ、ノアズキ(県, 準)、カサスゲ、ゴキズル、他



(植物グループ：有吉)

魚グループ

魚グループの活動は自然観察会と水槽の清掃、魚の定点調査およびセンターのイベントの補助の4つの活動を行った。

自然観察会は年に9回行われ、その内6回は魚の観察で、あとの3回は昆虫観察と水鳥の観察、溪流の生きものの観察が各1回行われました。7月の昆虫観察は都合の付くパートナーがいませんでした。

水槽の清掃は毎週水曜日に1階の展示室と2階にある水槽の清掃を行い、水の交換も行いました。併せて死んだ魚の除去や魚の追加も行いました。

魚の定点観測はセンター付近の霞ヶ浦湖岸で、魚の捕獲調査をするとともに水質の調査も行いました。調査地は自然再生地区内の池2ヶ所と隣接の湖岸、田村弁天様の湖岸、沖宿の機場・センター下・川尻川河口の湖岸と堤脚水路の合計10ヶ所で、池と湖岸は投網、堤脚水路では投網を広げて水路に落とす方法で捕獲し、捕獲した魚は種類ごとに匹数を数え、体長を計りました。水質調査は気温・水温・pH・電気伝導度・透視度を測定しました。魚調査と水質調査に分かれて調査をしますが、魚がたくさん捕れる時などは協力して行っています。

センター行事の補助は5月のこども環境フェスティバルと8月の夏まつりでは投網教室、2月の環境学習フェスタでは魚大研究の補助を行っています。投網教室は芝生の上で投網の投げ方を教えて、体験する催しです。今年の魚大研究は、魚の耳石の取り出しを行いました。

自然観察会	4月	5月	7月	8月	9月
内 容	春の魚とフナの産卵観察 (川尻川河口)	桜川の魚	昆虫の観察	筑波山の溪流の生物	湖岸魚類観察 (浮島)
パートナー参加人数	4人	8人	0人	4人	4人

自然観察会	10月	11月	1月	2月
内 容	恋瀬川支流 (川又川)	鮭の遡上とふ化場の見学	水鳥の観察	霞ヶ浦の魚類観察と年齢を調べる
パートナー参加人数	4人	5人	1人	3人

定点調査	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11月	12月	1月	2月
パートナー参加人数	4人	6人	5人	4人	6人	6人	6人	5人	5人	6人	4人

(魚グループ：腰塚)

研修グループ

研修グループの主な活動は研修室、霞ヶ浦出前講座での水質分析、プランクトン観察などの講師補助活動と自主企画活動「フィールドで水を覗いて感じよう！Part3」の実施、それにこれらの進捗状況や結果、意見交換を図るための4半期毎の定例会とメンバーのレベルアップを図るための勉強会の開催です。

(1) 研修室、霞ヶ浦出前講座講師補助活動

内容は霞ヶ浦湖水、持ち込まれた河川・沼等の水、水道水の水質分析と顕微鏡によるプランクトン観察の講師補助です。研修室では述べ7,993人、156団体（平成25年2月現在）、霞ヶ浦出前講座では3,510人、62団体（平成25年2月現在）の大半への講師補助活動をしています。

パートナーの参加状況は研修室では1回に2～6名で平均3,4名です。出前講座では1回に2名程度です。

(2) 自主企画活動

「フィールドで水を覗いて感じよう！Part3」をテーマに各類型別に選定した5河川(桜川、新川、備前川、山王川、巴川)下流部と霞ヶ浦(センター下)の6地点で採水、水質分析(デジタルバックテスト)を行うものです。

水質分析項目は透視度、pH、COD、リン酸態リンなど全8項目、この他採水点付近の植物の状況、水の色、流れ等を観察します。調査回数は春夏秋冬の年4回で平成24年7月31日(夏)、10月17日(秋)、平成25年1月24日(冬)を終えたところです。(春は平成25年4月中旬予定)

(3) 定例会と勉強会の実施

- ・進捗状況や意見交換を図るための定例会は4月、7月、11月、平成25年2月の計4回開催しました。
- ・勉強会は4月から6月にかけて4回開催しました。内容は第1回湖上スクールの学習内容、第2回プランクトン観察、第3回水の浄化・硝酸イオン、第4回酸性雨。講師はセンター研修担当の先生方です。



研修室における水質分析



桜川での水質調査(自主企画活動)

(研修グループ：浅野)

図書グループ

図書グループのメンバーは総勢 19 名で、毎週金曜日を活動日とし、交流サロンの利用可能な日に活動を行いました。活動内容は従来の継続テーマで…

(1) 文献資料室の蔵書紹介 (全員)

文献資料室内にある蔵書や新規購入図書を知って頂くための紹介文の作成を行っています。前年は、四半期ごとのテーマを設定し、蔵書紹介する方法を取り入れましたが、参加者が少ないため、今年は各自にテーマをまかせて蔵書紹介を行ってきました。2月末で61件の紹介文を作成し、順次交流サロンに掲示されています。

(2) 霞ヶ浦 Q&A の作成 (全員)

「文献資料室蔵書利用の効果を高めるため」目的で、資料室の蔵書から、霞ヶ浦の環境や歴史等に関する「霞ヶ浦 Q&A 集」を作成してきました。2月末まで55件のQ&Aが集まりました。3月までにはファイルの形で取りまとめたいと思います。

(3) アクリルタワシ作成指導への補助 (全員)

イベント開催時やアクリルタワシ教室の開催時に作成指導の補助を行いました。

(4) 「テーマ別新聞切抜き綴り」の作成 (希望者6名)

作業量が多くて作業工程が遅れた時もありましたが、現在順調に進んでいます。終了次第順次情報として提示していきたいと思います。

振り返ってスクラップ帳を見ますと、まさに歴史の変遷が良く分かります。今後の課題は、パートナーの確保とテーマの範囲を再検討して、今後も継続していきたいと思います。

(5) 読み聞かせ (希望者7名)

センター恒例行事参加と、月1回(第4土曜日)の頻度で絵本や紙芝居を利用した読み聞かせを行いました。

また、読み手のスキルの向上に努める方策も必要と思いました。今後の課題は、開催時間・集客方法などの検討がさらに必要と思っております。

(図書グループ：山中)

新聞クリッピングから

地球の気候変動などの国際会議では、少数意見として、いまだに人間無罪論や地球寒冷化説などの主張が消えないそうだが、ここ一年近くの新聞記事をモニターしてみると、次々と危機的な気候現象が伝えられているのも事実だ。

その主な記事のタイトルを時系列に並べてみる。

- 「南極の海氷 琵琶湖分消滅 --世界の気候に影響も」 (平成24年5月3日 毎日新聞)
- 「3分野 (気候変動、生物多様性など) 『地球の限界』 超す」 (平成24年6月19日 読売新聞)
- 「CO2濃度 国内初400ppm—温暖化深刻に」 (平成24年5月17日 毎日新聞)
- 「北極海の氷 最悪のペースで縮小—月末にも最小に」 (平成24年8月21日 読売新聞)
- 「北極海の氷 最小を更新」 (平成24年9月21日 朝日新聞)
- 「世界の地下水、枯渇の恐れ—たまる量の3.5倍消費」 (平成24年10月3日 朝日新聞)
- 「『氷期』原因解明—温暖化 高精度予測に期待」 (平成24年10月4日 毎日新聞)
- 「温暖化で滞在期間が1ヵ月短縮—横浜でツグミなど冬の渡り鳥」 (平成24年10月8日 毎日新聞)
- 「都市の面積、2030年に3倍—生物多様性の危機も拡大」 (平成24年10月24日 朝日新聞)
- 「地球のCO2濃度 過去最高—海水が酸性化 生態系への影響懸念」 (平成24年11月21日 朝日新聞)
- 「サンゴ、60年後絶滅? 日本近海 温暖化と酸性化」 (平成25年1月10日 朝日新聞)

果たして人類は「気候変動」、「生物の多様性」、「窒素循環」、「成層圏のオゾン」などの課題をクリアする知恵を持つことができるのだろうか。

(パートナー：細谷)



私の細道（その4）

日光道中

元禄2年（1689年）3月27日に芭蕉と曾良は千住より日光街道を一路北に向かった。「奥の細道」には、草加の宿に着いたとの記載の次は、栃木の惣社町にある「室の八嶋」参詣の項へと続く。曾良の随行日記によれば、二人は草加では宿さず、春日部（糟壁）に泊した後、栗橋の関所を通り、間々田に一泊した。更に小山より壬生に出て、歌枕の地で有名な「室の八嶋」を詣でたと記載されている。

2013年2月4日。立春の日に私はこの地を訪れた。朝8時半に阿見の自宅を出発。常磐道・北関東道を経て、時折小雨に見舞われながら、10時には惣社の大神神社に着いた。「室の八嶋」はこの大神神社の林の中にある。芭蕉と曾良がこの地を訪れたのは元禄2年3月29日であり、陽暦に直すと5月18日。時節は大きく異なるが、芭蕉らも曇り空から小雨の中での訪問であった。

「私の細道」と題して芭蕉の旅の足跡を追おうとしたのは2年前であり、草加までの道は紹介した。今回は、その続きとなる。「室の八嶋」についての記載は次号に譲り、今回は草加とこの地までの日光街道について記す。

私はこの地・惣社から草加まで、芭蕉の辿った道を逆走してみた。惣社を出て、喜沢より国道4号線に入り、小山、間々田を経て、利根川を越え、栗橋へ。利根川の土手下には、関所跡の案内板があった。更に、南下して春日部に着いたのは午後4時頃であった。



春しぐれ芭蕉と曾良の旅の跡 俊夫

現在の日光街道の両側には近代的な家並みやビルが続き、昔日の面影は無くなっている。

「奥の細道」は芭蕉と曾良の150日間の歌枕を訪ねる旅をもとに、旅の5年後、元禄7年（1697年）に完成したと云われている。その5ヶ月後に芭蕉は大坂に51歳で客死している。芭蕉はこの作品に並々ならぬ精力を注いでおり、原案を何度も推敲し、朱や墨で修正したと云われている。弟子の素龍に清書させたものが出版されたが、初版（西村本）は芭蕉の死後7年目の元禄15年。1990年、自筆本が発見され、議論の渦中にある。

既に述べた通り、「奥の細道」は70年前に発見された曾良の随行日記の旅程と随所に異なる部分があり、いわゆる単なる紀行文ではなく、意図された創作文学である。

文面には、西行など先人の名歌や故事が心地よく引用され、謡曲の調べもあり、まさに名文の中に俳句を散りばめた文芸作であるといえる。芭蕉はこの旅を通して、あるいはその前後からある境地に達し、これを作品に残そうとしたのではないかと云われている。



ところで、「奥の細道」の裏側にもう一つの顔があるとの指摘もある。この旅が、当時の政治体制の中での、幕府の密命を帯びた一面があるとの研究が、ある学者たちによってなされている。

開府後80余年になる幕府と伊達藩の緊張関係の中でなされた伊達藩中に深く立ち入る旅には、それなりの意図があったという。芭蕉らのみちのくへの旅は、丁度、幕府の命により伊達藩が日光東照宮の大改修をしようとしていた時期と重なる。改修受託には膨大な散財を要し、藩内にも反発があった。そのような背景が、芭蕉と曾良の旅のいろいろ取り沙汰される所以である。

春日部に着いた私は市役所の観光課に立ち寄った。ここで、芭蕉らの宿泊先についての情報を求めたが、東陽寺と小淵山観音院等が候補地として挙げられているものの、事実関係は確認されていないようである。4号線を更に南下して、草加に着いたのは5時前であった。草加の芭蕉と曾良の像に2年振りに再開した。今回も「やうやう草加に辿り着いた」という感であった。

（パートナー：小松）